

# 大信寺からのお知らせ

平成20年2月13日

大信寺住職 岡田真幸  
護持会会長 千金楽勝夫  
護持会 役員一同

寒中お見舞い申し上げます。

今年は、白銀の節分となり、立春を過ぎても寒さが一段と厳しくなっています。壇信徒の皆さまにはご隆昌のことと存じます。

昨年初めより、「なぜ仏像が造られるようになったのか」という素朴な疑問に興味を持ち、取材・調査を重ね、その結果を長柄公民館にて百数十名の方々にお越し頂き、講演させていただきました。

その結論の一つとして「在家信者にとって仏教とは、主に芸術を媒介として教義を伝える宗教である」とお話ししました。包み込むような優しいお顔の仏さまを拝観すると、思わず手を合わせ、心が清らかになり、ほとけ心が現れます。これが信仰の原点だと思います。

講演での質問の一つに

「どこの仏像がお好きですか」

とあり、思わず、

「それは、大信寺境内の如意輪観音菩薩です」

と答えました。

境内掃除の際に、ふと朝日に照らされたこの石仏を拝すると心が和みます。右の写真をご覧ください。

寒さが一段落いたしますと春のお彼岸が参ります。お彼岸の云われを掲載いたしますのでご一読下さい。

合 掌  
住職 鳳譽真幸

## 護持会役員会 会議報告

期日 平成20年1月27日(日)午前7時半～

議題 新役員選出について

平成19年度決算報告について

平成20年度護持会会費収入について

議事

大林地区担当役員 尾城俊夫氏から辞任の申し出があり、承認されました。

後任として、千金楽幸作氏(大林担当、前邑楽町議会議員)が選出されました。

平成19年度護持会決算報告及び平成20年度護持会会費収入が提出され、監査により関係書類を照合の結果、適正を認められたことの報告がありました。別紙をご参照下さい。

## 如意輪観音(によいりん かんのおん)

大信寺境内の参道左側で右膝を立て、右手を頬にあてて思惟のポーズで鎮座しています。

本来は、如意宝珠(によいほうじゅ)と輪宝(りんほう)を持っており、これが名称の由来です。

如意宝珠とは全ての願いを叶えるものであり、輪宝とは古代インドの武器であったチャクラムが転じて、煩惱を破壊する仏法の象徴となったものです。

如意輪観音は、「どこへでも自由自在に転がって行って、現世で困っている人々の願いを聞きとどけてくれる」という、ありがたい観音さまです。この観音さまの台座には、

寛政七乙卯歳 (1795年)

如意輪観世音菩薩

十一月吉祥日

上州佐貫庄篠塚村地中 (北側)

第十世 明誉上人 (南側)

とあり、213年前から人々を見守っています。

数々の石仏を参拝し写真撮影している厚川小一氏のお話では、これほど素晴らしい石仏は他にはないとのことでした。

確かに慈悲をもって救ってくださるような優しいお顔です。



## お彼岸とは

お彼岸は1年に2回、春と秋にご先祖さまへの感謝の気持ちを込めてご供養する仏教行事です。春分・秋分の日を中日とし、前後各3日を合わせた7日間のこと、初日を「彼岸の入り」、最終日を「彼岸明け」と呼びます。

今年は、3月17日(月) 彼岸の入り  
20日(木) 中日  
23日(日) 彼岸明け

となります。

### 此岸と彼岸

仏教では、貪り(むさぼり)、怒り(いかり)、妬み(ねたみ)などの煩惱に満ちた現実の世界をこちらの岸を意味する「此岸(しがん)」といい、それに対し、苦しみのない悟りの世界理想の世界を向こう岸を意味する「彼岸」といいます。

そして、その真ん中に流れているのが、人間の悩みの世界がつくっている煩惱の川です。

そこで、迷いの世界「此岸」から、六つの修行の船に乗って悟りの世界「彼岸」に渡ろうというのが、彼岸の教えです。

どんな修行の船かといいますと、

布施(ほどこし)	持戒(いましめ)
忍辱(しのび)	精進(はげみ)
禅定(しずけさ)	智慧(さとり)

の六つの船「六波羅蜜(ろくはらみつ)」とされています。

日頃は忙しくてなかなかできなくても、年2回のお彼岸には、お釈迦さまの説かれたこの六つの教えを実践しようというのがお彼岸本来の意味です。ですから、お彼岸には、ご先祖のご供養をするとともに彼岸へ渡る修行を通じて、自分自身を見つめ直す良い機会となります。

### 春分・秋分の日

国民の祝日に関する法律では、

春分の日 「自然をたたえ、生物をいつくしむ」

秋分の日 「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ」ことを趣旨としています。

また、この日は、昼と夜の長さが同じで、日は真東から昇り、真西に沈む日でもあります。

### なぜ、春分・秋分の日が彼岸なのでしょう

仏教では、極端を嫌い何事もバランス良く、ゆっくり焦らず努力するという「中道(ちゅうどう)」の考えを大切にしています。

それが、昼と夜の長さが同じとなる春分・秋分の日と結びつけられたという説があります。

また、極楽浄土(阿弥陀如来が治める浄土)は西方の遙か彼方にあります。春分・秋分の日には、太陽が真西に沈むので、西方に沈む太陽を礼拝し、遙か彼方の極楽浄土に思いをはせたのが彼岸の始まりという説もあります。

元々は中国から伝わったもので、お彼岸の中日と結びつけたのは中国浄土経の善導大師(ぜんどうだいし)という高僧です。

その善導大師が著した「観無量寿経疏(かんむりょうじゅきょうしよ)」に、

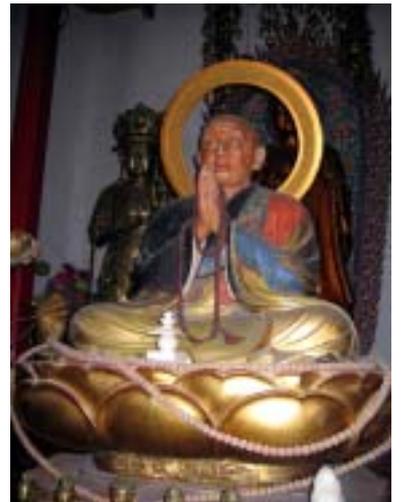
その日は、太陽が真東に出て真西に沈み、阿弥陀仏の国は日没のころ真西の十万億刹の彼方にあると書いてあり、それが日本のお彼岸の原点といわれています。

心に極楽浄土を思い描き浄土に生まれ変われることを願ったもの(念仏)ですが、日本に伝来後、いつの間にか法要を営み祖先を祀る行事へと変化していきました。

日本で初めて彼岸会が行われたのは806年(大同元年)と1200年も前のことです。

### 善導大師

中国、唐の時代に活躍した高僧(613~681年)で、その書「観無量寿経疏」は浄土宗の宗祖法然上人に多大な影響を与えました。浄土宗の各家お仏壇には、下半身が金色の善導大師と法然上人の軸や像が安置されていると思います。



香積寺(中国 西安)の善導大師像  
(日本の浄土宗が寄贈しました)



善導大師ゆかりの香積寺(2007年8月26日撮影)

## 篠塚伊賀守奉賛会開催のご案内

関東各地より篠塚伊賀守重廣公の子孫が集い、伊賀守供養を下記のとおり開催いたしますので、壇信徒の方々も是非、ご列席下されば幸いです。  
開催日 4月6日(日)

11時 篠塚伊賀守公 奉賛供養法要 勤修  
12時 懇親会 篠塚陣屋にて

法要はご自由にご出席ください。

懇親会にご出席の場合は会費2,000円にて3月30日までに大信寺までお申込み下さい。